

メインシンポジウム

豊かなる地域医療 ～患者も 地域も 医療者も～

座長：川合耕治（伊東市民病院 管理者）

梅屋 崇（あま市民病院 管理者）

① 人生で大切なことはすべて地域から学んだ ～医療者にとって地域は宝物！～

中村 伸一（おおい町国民健康保険名田庄診療所 所長）

② へき地、地域で学んだこと、学生・研修医を受ける側から送り出す側へ

吉村 学（宮崎大学医学部地域包括ケア・総合診療医学講座 教授）

③ 地域医療から自治医科大学循環器内科の原点「目の前の一症例に全力を尽くす」

苅尾 七臣（自治医科大学内科学講座循環器内科学部門 教授）

座長：川合耕治 (伊東市民病院 管理者)、梅屋 崇 (あま市民病院 管理者)

人生で大切なことはすべて地域から学んだ ～医療者にとって地域は宝物！～

中村 伸一

おおい町国民健康保険名田庄診療所 所長

1991年の卒後3年目、自治医科大学卒業生の義務として派遣された先は人口約3千人、過疎高齢化がすすむ山間へき地の旧名田庄村（現おおい町名田庄地区）だった。赴任当初は結婚したばかりで、家庭人としても初心者だった私たちをあたたく見守るように地域の人たちは接してくれた。1996年からの2年間は外科後期研修の機会を得たが、それ以外はこの地域に留まり、通算で32年目になる。

へき地で働き始めると、幅広い外来診療、在宅ケア、在宅看取り、健診、検診、健康づくりなど実に多彩かつ刺激的であり、地元の保健・福祉スタッフと連携し、予防や介護にも取り組んだ。後期研修での経験も活かし、内視鏡治療、外来化学療法なども取り入れていった。1999年からの6年間は、旧名田庄村の保健福祉課長も兼務することで保健・医療・福祉の統括責任者となり、介護保険制度の準備と開始、国保ヘルスアップモデル事業等に取り組んだ。

私のところには、長年にわたり多くの医学生や研修医が地域医療を学びに来てくれている。ある研修医は、「名田庄では患者さんを診る心が養われた」と語った。若いころからひとつの地域を長く“定点観測”してきた経験と地域住民との絆が、目に見えない形で彼らの教育に役立っているのかもしれない。

長い月日の中では、うまくいかないことも多々あった。非典型的な症状を呈するクモ膜下出血を誤診したこともあった。身の覚えのないことでトラブルに巻き込まれ、濡れ衣を着せられたこともあった。私自身が病になり、手術を受け2ヶ月休んだこともあった。親身になって接していた患者が自殺してしまったこともあった。それでも地域のだれかが私を許し、私を救ってくれた。だからこそ、私もだれかを許せるようになり、地域の人たちが喜び姿を思い描きつつ働くことができている。

地域での診療と生活を通じ、「情け（愛）は人の為ならず」、「許しの連鎖が人と地域を豊かにする」、「支えあう住民と医療者が地域医療の崩壊を救う」「周囲に愛情を注ぐことこそが、最大の認知症対策になる」など多くのことを学んだ。

今思い返せば、人生にとって大切なことはすべて地域から学んできた。考えようによっては、私たち医療者にとって地域は宝物だといえるのではないだろうか。この宝物を広く社会に伝えるように様々なアプローチを仕掛けていく。地域医療の面白さ、奥深さ、すばらしさを伝えることで、多くの若い医療者が地域に飛び込んでくれると信じている。

【略歴】

- 1989年 自治医科大学 卒業（福井12期生）
- 1989年 福井県立病院診療部
- 1991年 名田庄村国民健康保険名田庄診療所 所長
- 1996年 福井県立病院外科
- 1998年 名田庄村国民健康保険名田庄診療所 所長
- 1999年 あっとほ～むいきいき館 ジェネラルマネージャー
- 2000年 全国国民健康保険診療施設協議会 理事
- 2006年 おおい町国民健康保険名田庄診療所 所長
- 2009年 自治医科大学地域医療学 臨床教授
- 2017年 NPO法人J-HOPE 理事長
- 2022年 全国国民健康保険診療施設協議会 副会長

座長：川合耕治 (伊東市民病院 管理者)、梅屋 崇 (あま市民病院 管理者)

へき地、地域で学んだこと、学生・研修医を受ける側から送り出す側へ

吉村 学

宮崎大学医学部地域包括ケア・総合診療医学講座 教授

地域で働く町医者に憧れて医学校に入った学生が、色々な方々と出会い、迷いや決断を重ねていく中で絶えず不安と戦いながらも楽しさややりがいを見出していくプロセスを紹介する。大会のメインテーマを考える上での一例報告として参考にいただければ幸いである。これまでに過ごした地域と年数は鹿児島 18 年、宮崎 6 年、栃木 2 年、群馬 2 年、栃木 4 年、岐阜 17 年、宮崎 9 年である。このうち、医師としてへき地に赴任したのは群馬と岐阜である。「へき地は医師をステキにする」の言葉通り、本当に大切なことを教わって成長させていただいた。何がそうさせるのかについても触れてみたい。とにかく感謝しかない。一方で絶えず焦りや不安(臨床能力・キャリア・専門性・他)との戦いでもあった。その時に役立ったのは恩師や指導医との会話、同期とのディスカッション、スタッフや住民さんとの交流であったかもしれない。もちろん一緒に現地に行ってくれた家族の支えも大きい。恩師の故五十嵐正紘先生からは初期研修冒頭の三ヶ月ほぼ毎日、本当に多くのことを教えていただいた。

ただ最初は正直よくわからないこと(抽象的なこと)も多く、実際に地域に赴任してジワジワとその意味することが理解できるようになっていった。とにかく自分で考えること、自分の足を運んで学ぶこと、“see one, do one, teach one”、「教えることが一番自分の勉強になる」、頭の中に浮かんできたことを書き留める大切さ、振り返りの習慣、これらは今につながっている。

1998 年に岐阜県の揖斐郡北西部地域医療センターに赴任して山田隆司先生のもとで働きはじめた。五十嵐先生からの指令もあり「これからは地域で医学生や研修医を教えるのが主流になる。ぜひやりなさい」と送り出された。山田先生のご指導のもとで、医学生や研修医の実習を受け入れて指導するようになった。不安と手探りの中で試行錯誤しながらやり続けた。沢山の方々のサポートをいただきながら徐々に楽しさややりがいを感じるようになった。また医師だけでなく地域を支えておられる多職種の皆様のお手伝いができないか仲間たちと多職種連携の勉強会を立ち上げて取り組んだ。その学びに参加した看護学生や医学生たちに笑顔が見られるようになり、大きく成長する姿を地域でみることができるのは最高のご褒美になった。

へき地医療や地域医療に従事する医師や医療者を増やすにはどうしたら良いかを考えるようになり、医学生たちを地域へ送り込む側になることではないかと考えて母校の教員になった。まだまだ私の journey は続いている。

【略歴】

- 1991 年 宮崎医科大学卒
- 1991 年 自治医科大学附属病院初期研修医、地域医療学講座所属
- 1993 年 地域医療振興協会 六合温泉医療センター勤務
- 1995 年 自治医科大学地域医療学講座 病院助手 チーフレジデント
- 1998 年 地域医療振興協会 揖斐郡北西部地域医療センター勤務
- 2005 年 地域医療振興協会 揖斐郡北西部地域医療センター センター長
- 2008 年 (「地域医療のススメ」 副プログラム責任者)
- 2010 年 地域医療振興協会 シティ・タワー診療所(非常勤)
- 2012 年 岐阜大学大学院医学教育開発研究センター(MEDC) 博士課程
- 2015 年 宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座教授(県寄附講座)
- 2024 年 宮崎大学医学部地域包括ケア・総合診療医学講座教授併任(都農町寄附講座)
ALL MIYAZAKI 総合診療専門医研修プログラム プログラム責任者

座長：川合耕治 (伊東市民病院 管理者)、梅屋 崇 (あま市民病院 管理者)

地域医療から自治医科大学循環器内科の原点「目の前の一症例に全力を尽くす」

荻尾 七臣

自治医科大学内科学講座循環器内科学部門 教授

「目の前の一症例に全力を尽くす」— 自治医科大学を卒業後、義務年限期間に兵庫県淡路島でへき地医療を行った後、母校に戻り、循環器内科学教室の原点を一言にまとめた。これは阪神淡路大震災の震源地であった淡路島の北淡町での地域医療の実践と災害医療の経験に端を発し、当教室歴代教授の細田嵯一教授と島田和幸教授が最も大切に考えられていた教えを組み入れた。

淡路島の北淡町は漁師町で、赴任当時、脳卒中死亡が兵庫県で最も多い町であった。脳卒中の抑制には血圧管理が重要であるため、母校の循環器内科教授に就任されたばかりの島田和幸先生に御相談したところ、24 時間血圧測定を勧められた。淡路島で高血圧研究が始まった。思い返せば多くの障害があった。しかし、「誰といつ会うか」—それを貴重な機会と信じ、「明日はよくなる」と希望を持ち、目の前環境の中で選択し、行動し続けることが大切であると思う。

「創新」—学術活動の本質である。—自分の頭で考え、今、世間で言われていること、昨日考えたこととは異なることを、定性的に画像や定量的に数字で、より客観的に「記録に残す」ことである。

「一人では何もできない」— 現在、自治医科大学循環器内科では、「目の前の一症例に全力を尽くす」を第一義に掲げ、医局の仲間とともに高度先進医療を進め、栃木県の地域医療、「総合医的視点をもつ循環器内科医」の育成と学生教育に力を入れている。

本シンポジウムでは、これまでの私自身の歩みを振り返り、地域医療の実践から大学での過程で、何を考え、何に喜怒哀楽し、何を選択してきたか。そして、現在、何を目指して行動し続けているかを語りたい。

【略歴】

- 荻尾七臣 (かりお かずおみ) 昭和 37 年 5 月 5 日 兵庫県 たつの 生まれ
- 1987 年 自治医科大学卒業
- 1996 年 自治医科大学循環器内科助手
- 1998 年 コーネル大学循環器センター/ロックフェラー大学・Guest Investigator 留学
- 2000 年 自治医科大学循環器内科講師
- 2005 年 コロンビア大学医学部・客員教授
- 2005 年 自治医科大学内科学講座・COE / 循環器内科学部門教授
- 2009 年～ 自治医科大学内科学講座循環器内科学部門教授・循環器内科科長 (現職)
- 2014 年 ロンドン大学循環器病科学研究所・客員教授
- 2016 年 上海交通大学医学院・客員教授 (中国上海)
- 2017 年 国家心血管病センター/中国医学科学院阜外医院 (中国北京)・主幹教授
- 2018 年～ 自治医科大学附属病院循環器センター・センター長 (現職)

日本高血圧学会副理事長,国際高血圧学会理事,日本循環器学会評議員,アメリカ心臓病学会フェロー,ヨーロッパ心臓病学会

フェロー, HOPE ASIA Network (循環器病予防アジアネットワーク) 理事長

日本高血圧学会高血圧治療ガイドライン, ヨーロッパ高血圧学会家庭血圧ガイドライン, ヨーロッパ高血圧学会 ABPM ガイドラインの作成にかかわる

日本高血圧学会誌 Hypertension Research (IF=5.525) 編集長, Current Hypertension Review 編集長, Hypertension, Am J Hypertens, J Clin Hypertens, など 15 国際学術誌の編集委員を務め,英語論文は 1000 編を超える。著書「Essential manual of 24-hour blood pressure management from morning to nocturnal hypertension, Wiley-Blackwell, London, pp.1-374, 2022